

前橋市立図書館だより



萩原朔太郎の詩から

竹を植えようと思いました

前橋市立図書館の設計者
建築家・林 昭男さん
インタビュー

竹
萩原朔太郎

光る地面に竹が生え
青竹が生え
地下には竹の根が生え
根がしだいにほそらみ
根の先より繊毛が生え
かすかにふるえ。

かたき地面に竹が生え
地上にするどく竹が生え
まっしぐらに竹が生え
凍れる節節りんりと
青空のもとに竹が生え
竹 竹 竹が生え。

詩集『月に吠える』より



LIBRARY LIFE

第 9 代図書館長・萩原 進

前橋学センター長 手島 仁



晩年の萩原進
1988 年 7 月撮影
出典：Wikipedia

現在の図書館の建物は、専門委員長の時に仕えた第 9 代図書館長・萩原進（在職昭和 42（50 年）の構想であつた。萩原は戦前には小学校教諭・教頭などを歴任、戦後は初代県議会図書室長に就任し、石井繁丸市長に招請され市立図書館長となつた。

萩原は戦後の群馬県の歴史研究者の総帥であり、文化運動の中核を担った大物で、群馬県で最も古く権威のある前橋市立図書館長に相応しい人選であつた。私は萩原先生が群馬県史編纂

萩原は図書館を、博物館、文書館、学習センターの機能を持たせた前橋の「文化の殿堂」にしようとした。萩原構想を設計したのが、萩原の桃井小学校時代の教え子で建築家の林昭男氏である。新図書館は、昭和 49 年に完成し「関東一」と称えられた。

その後、各種の文化施設ができ、市全体の文化環境が整備される一方で、市立図書館の文化の総合性（求心力）が低下していったことはやむを得ないことであつた。しかし、「地域経営」が叫ばれる今、大切なことはもう一度、市立図書館が前橋の文化の殿堂として文化の総合的機能を再生させることである。泉下の萩原先生もそう願っているに違いない。

休館日

本館、上川淵・下川淵・桂萱・元総社・総社
総合教育プラザ・南橋・大胡・富士見分館

月曜

城南・東・芳賀・清里・宮城・粕川分館

木曜

前橋こども図書館

第 4 水曜

* 6 月 3 日 (月) は全館休館日です。

* 蔵書整理で、6 月 10 日 (月)～14 日 (金) は前橋こども図書館が休館。

6 月 24 日 (月)～27 (木) は各分館が休館します。

元号が令和へと引き継がれました。図書館だよりも紙面を新たにスタートします。ご期待ください。

新館長
伊井直文の
つぶやき



編集よもやま話

今号から図書だよりを担当します。建築家の林昭男さんは御年 87 歳ですが、凛とした聡明な方です。今は東京で暮らしていますが、年齢を重ねるごとに郷里への思いが募っていくと話してくれました。テクノロジーの進化は図書館の資料や役割を変えていきますが、林さんの話のように社会が図書館を必要としていくことは変わらないのでしょうか。前橋市はダイバーシティのまちとして、多様性を受け入れて、違いを認め合える社会を目指しています。その価値感を支えられる図書館として、自身は時代に即した進化を遂げていかなくはないですね。（山村）



前橋市立図書館
JP-1000546

図書館だより 第 350 号 令和元年 6 月発行
〒371-0026 前橋市大手町二丁目 12 番 9 号
TEL 027-224-4311 FAX 027-243-1877



WEB
SITE

蔵書検索
調査相談
利用案内



私のおすすめの一冊

アーツ前橋 学芸員
辻 瑞生さん

「センス・オブ・ワンダー」

レイチェル・カーソン 著
上遠恵子 訳 新潮社



いろいろ悩んだ末、大学を卒業して最初に勤めた会社を辞めるとき、餞別としてもらった本。それ以来、自分の心を整えるときに、時々手にします。『沈黙の春』で知られる海洋生物学者のレイチェル・カーソンの遺作です。レイチェルが幼い子どもと一緒に自然を探索した体験をもとにしたエッセイです。美しいものや未知なもの、神秘的なものや不思議なものに目を見はる感性を育むこと、そのために自然を体験し、五感のすべてを動員して感じることの大切さについて書かれています。私は美術作品を鑑賞すること、これに通じると思っています。

6/23(日)まで
アーツ前橋で
開催中



アーツ前橋 | www.artsmaebashi.jp

前橋こども図書館



WEB
SITE



絵本読み聞かせイベントなど
詳しくは同館ウェブサイトをご
覧ください。

EVENT

親子読み聞かせ入門講座

家庭での読み聞かせの仕方や絵本の選び方などについて講義と実演を行います。
日時＝7月8日(月)午前10時～正午
会場＝K'BIX元気21まえばし内中央公民館
対象＝①親子、先着10組20人
②一般、先着20人
申し込み＝6月7日(金)から前橋こども図書館(☎027-230-8833)へ

『皇室と前橋』 7月21日(日)まで開催中
- 平成時代とともに - 市立図書館本館2階展示室

6月20日のぷちシネマ

『男どき女どき』

市立図書館本館で映画会を開催します。

日時＝6月20日(木)

午後1時30分～3時10分

会場＝市立図書館本館3階視聴覚室

対象＝一般、先着30人

事前申し込み不要。当日会場へ直接



©2019 NHK

向田邦子の朗読ドラマ

主人公・夏子のひと夏の出来事を追いながら、夏子役の岸本加世子が情感あふれる朗読の、向田邦子の珠玉の作品

PETITE CINEMA



昭和から平成、令和へと流れゆく時代の中で、多くの市民に親しまれてきた前橋市立図書館。来館の際には歴史を刻んだ建物にも思いを馳せてみてください。

INTERVIEW

市政施行80周年記念事業として建設が決まり、昭和49年5月に開館した現在の前橋市立図書館。設計者・林さんの建築への情熱は今も変わらない。

閉じた図書館から開かれた図書館への大革命

建設当時は閉架の図書館が主流で、多くの図書館では借りたい本を窓口で申請して係員から本を受け取る仕組みでした。その時代において、市民に開かれた図書館を作ることが私に与えられた使命。東京でも多くが移動式図書館という状況でしたから、開放スペースに本棚が並び、市民が自由に本を手にとって選べる前橋市立図書館は時代の最先端でした。開館の日には、「ここに無料で入れるのですか」と聞かれ、驚きました。建物の設計やコンセプトが、その時代の図書館のあり方自体に大きな影響を与えたのです。

私は北曲輪町(旧町名)の出身で、かつては桃井小に通っていました。図書館が建てられた場所は、一面緑豊かなイチゴ畑でした。私に設計を依頼したのは桃井小の恩師で、後にこの図書館の初代館長となる萩原進先生です。私が早稲田大建築学科の学生だった時に参加したサンパウロビエンナーレという国際コンクールでの受賞作品を見てくれていたようです。設計候補者は他に何人もいたようですが、当時所属していた第一工房で佐賀県立図書館、東京都立中央図書館という2つの公共図書館の設

計に携わった実績もあり、私に決まりました。建築家として郷里の一大事業に参加できたことは、今振り返っても幸せなことです。

図書館1階中央図書室には、南と東に入り口が2つあります。これは桃井小の正門を出て、通り抜けの道というイメージです。子どもたちに自然に図書館体験をしてほしかったのです。ここに中2階を設けて2層としたのは萩原先生のアイデアでしたが、今館内を見てもやってよかったと思います。段差を設けて、どこからでも広く資料を見渡せる設計としました。前橋にも絹文化の遺産であるレンガ蔵がたくさんありましたから、図書館にもその街並みに合う外観を与えました。実際にレンガ造にしてしまうと地震に弱いので、コンクリート造レンガタイル貼り仕上げにしましたが、普遍性のあるデザインになりました。今では市内のレンガ蔵の多くが失われましたが、図書館がその記憶を継承しています。建築は時間の流れの中で価値が増していく文化です。使われ方はその時世によって変わるかもしれませんが、図書館が新しい体験や知覚を与える場所であることは変わりません。これからの愛され続けて欲しいです。

ザスパクサツ群馬・カインズ チャリティー収益金を当館へ寄付

CAINZ



5月22日に、ザスパクサツ群馬・カインズからの寄付金受入式を開催しました。カインズ前橋みなみモール店で1月1日に実施した選手着用ユニフォームなどのチャリティーオークション。この収益金18万4,202円が市立図書館へ寄付されました。山本市長と塩崎教育長が、ザスパクサツ群馬社長の奈良知彦さんとカインズ同店店長の山田敬さんから寄付目録を受領。寄付金は児童教育の環境づくりに役立てるため、前橋こども図書館での児童書の購入に使います。

